

小学校

平成 6 年 度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

教育研究員名簿

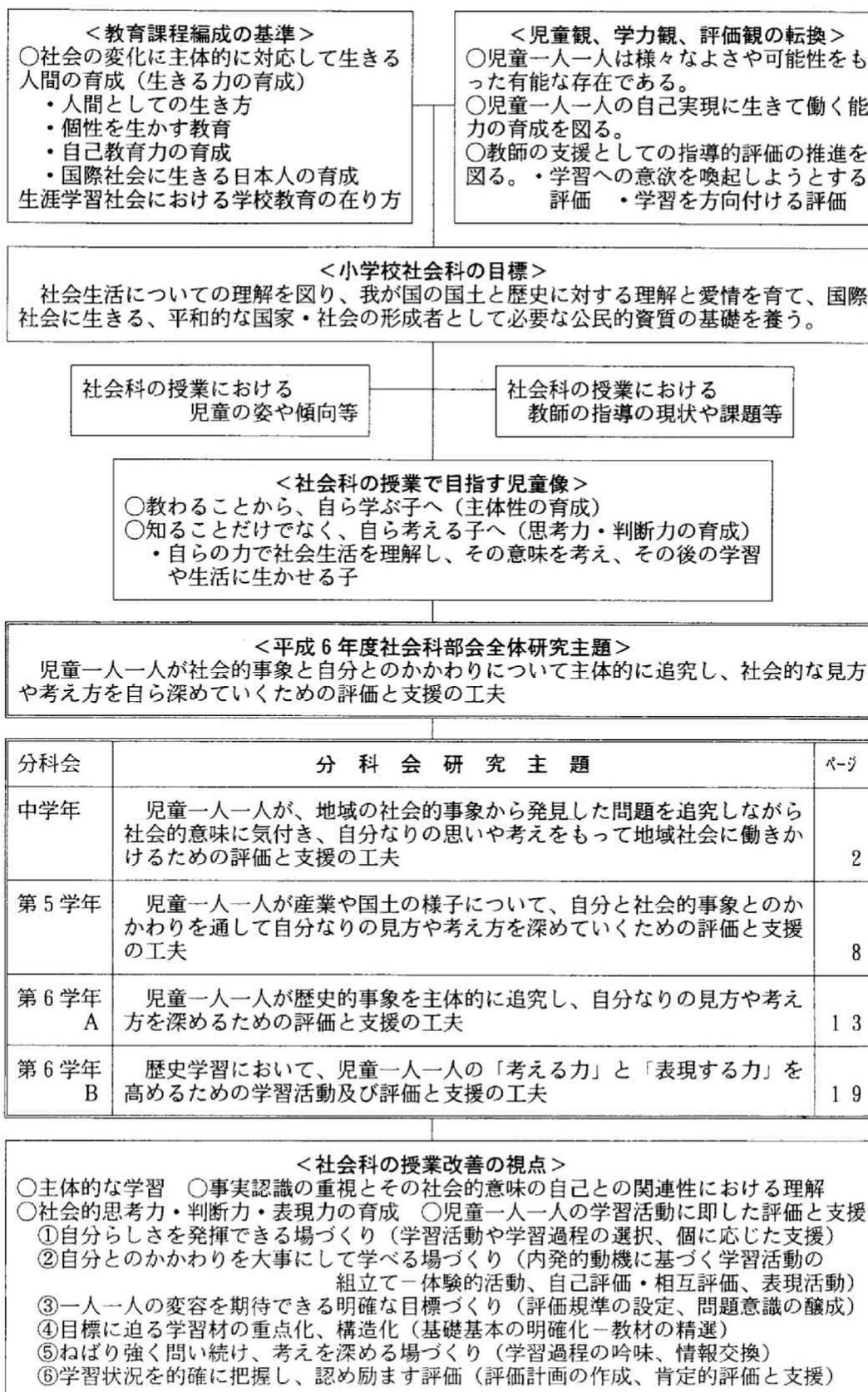
分科会	地区	学校名	氏名	分科会	地区	学校名	氏名
中学 年	新品大杉練武三昭小国 蔵金	宿川田並馬野鷹島井立 四大矢方練武北玉緑国 谷井口馬蔵野川立第 第三東第二野川第八	井藤屋元村橋藤藤田池 澤武門秋中高遠伊増菊 ○	第五学年	墨江大世中荒板練江八東 田戸王留	田東田谷野川橋馬川子米 西深北八大第蓮上平元第 吾糲五根石井王五 妻川幡和瑞第井西子東 小小小小小小小小小小小	弓信人子司一明美孝美裕 真善基文裕孝広直清康裕 山田井々野木本澤島賀河 ○ 沖柴藤佐水鈴栗宮本有小小

◎全体世話人 ○分科会世話人

担当指導主事 田部井 洋 文 教育庁指導部初等教育指導課

- これからの教育においては、児童一人一人が自ら考え、主体的に判断したり表現したりしながら、問題を解決していくことのできる資質や能力の育成を図ることが重要である。そのためには、内発的な動機付けによって学習意欲を喚起し、児童一人一人が自分の意志や考え、願いなどを十分に発揮しながら、学習活動に主体的、意欲的に取り組みこれからの学習や生活に生きて働く知識や能力を獲得していくことができるよう授業を改善していく必要がある。
- 社会科の学習において、社会的事象の特色や意味、相互の関連などについて考えることができるようになることは、児童一人一人の中に自分なりの社会的な見方や考え方の体系が確立することと一体のものである。児童一人一人が社会的な見方や考え方を自ら深め、その体系化を図るために、評価と支援の方法を中心に授業改善の具体的手だてを実践的に究明したのが、本年度の研究である。
- 研究の推進に当たっては、全体研究主題を設定し、それを受けて4つの分科会がそれぞれ研究主題と研究仮説を立て、先行研究に学びながらも主に授業実践を通して仮説の検証を行い、主題に迫るように努めた。

## 全体研究構成と目次



児童一人一人が、地域の社会的事象から発見した問題を追究しながら社会的意味に気付  
き、自分なりの思いや考えをもって地域社会に働きかけるための評価と支援の工夫

## I 研究主題設定の理由

中学年の児童は、自分が生活する地域社会について知らないことが多い。この傾向は、価値観の多様化に伴い、地域社会における共同生活という意識が次第に希薄になり、地域社会と家庭、地域社会と児童の距離が年々広がってきていることによるものと思われる。したがって、児童にとって地域社会は、一番身近でありながらそうとは意識されなくなってきたと言える。そこで中学年分科会では、地域の社会的事象に積極的に目を向け、そこから問題を発見し、主体的にかかわっていこうとする児童を育てていきたいと考えた。

また、中学年の児童は、非常に活動的で、「自分の目で確かめたい。」、「自分の手で何かしたい。」という欲求が強い。こうした児童の思いや願いを十分に生かし、自分の体全体を使った活動を取り入れ、事実を満足いくまで収集できるようにすることが重要である。しかし、事実を収集するだけでは、児童は、その事実のもつ社会的意味に気付くことはできない。収集した事実を比較したり、関係付けたりしながら、社会的な意味に気付くようにすることが大切だと考える。さらに、中学年社会科は、地域社会に対する深い愛情をもってよりよく生きようとしている人々のくらしや営み、考え方を学ぶことを通して、地域自体を把握するとともに、獲得した知識や共感したことを生活の中に生かそうとする児童の育成を目指している。そこで、収集した事実をもう一度見つめ直す活動を工夫し、社会的意味に気付く自分なりの思いや考えをもって地域社会に進んでかかわろうとしたり、「自分たちも協力しよう。」と、行動を起こしたりする児童を育てていきたいと考えた。

ところで、新しい学力観として、「関心・意欲・態度」が重視されている。また、生涯学習という立場から、自己教育力の重要性が強調されて久しい。これは、教師主導型の授業を見直し、児童一人一人が、発見した問題を主体的に追究し、自らの力で知識を獲得できるような授業へと改善し、生涯にわたって学び続ける意欲をもつ児童を育てていかなければならないという社会的要請であると考えられる。そこで、中学年分科会では、児童が意欲的に社会的事象を追究できるよう、適切な学習材を選定したり、活動の場を設定したりして、自ら学習を進めることができるよう学習環境を整える支援を行うとともに、自信と意欲につながる評価と、それと一体になった「支援を中心にした指導」を重視して、上記のような研究主題を設定し、研究を進めることにした。

## II 研究のねらい

児童一人一人が自分なりの思いや考えをもって地域社会に働きかけるようになるための評価と支援の在り方を明らかにする。

## III 研究の仮説

「活動の目的や方向をとらえ、それに基づいて事実を収集する。」、「収集した事実を見つめ直し、そのことのもつ社会的意味を追究する」という学習過程を設定し、一人一人の学習活動に即して評価と支援を行うことにより、児童は自分なりの思いや考えをもって地域社会に働きかけるようになる。

#### IV 研究の内容

##### 1 育てたい児童像

中学年分科会では、本研究を進めるに当たり、中学年児童の特色や実態から、育てたい児童像を次のように考えた。

	児童の姿（つぶやき、発言等）	単元での具体例
●社会的事象に 目を向ける子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・驚きをもつ。（えーっ。こんなことがあるのか。知らなかったなあ。）</li> <li>・疑問をもつ。（どうなっているのかなあ。聞いてみたいなあ。見に行ってみよう。調べてみよう。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ置き場を見たとき、「こんなに多いのか。すごいなあ。」（4年）</li> <li>・授業で、児童館の中の様子について知った後、「ぼく、今日、帰りに行ってみよう。」（3年）</li> </ul>
●社会的意味を 考えようとする子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象相互の関係について疑問をもつ。（これとこれは、似ているなあ。違うところもあるなあ。どうしてだろう。）</li> <li>・社会的事象と人間の営みとの関係について疑問をもつ。（色々工夫しているようだなあ。苦労もあるんだろうなあ。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「T区には、鉄道が12本もあり場所によっては、4人しか住んでいない所もある。M市と全然違うけど何かわけでもあるのかな。」（4年）</li> <li>・「ずい分仕事があるから大変そうだなあ。図書館の人は、コンピューターを使って工夫しているようだけど、うまくいくのかなあ。」（3年）</li> </ul>
●地域社会に 働きかけようとする子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの思いや考えをもつ。（こんな風にしたらいいんじゃないかな。わたしたちにできることは、やってみよう。）</li> <li>・社会的事象と自分とのかかわりに気づき、生活に生かす。（わたしの生活が、こんなふうになったよ。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すいがら入れを町中につけて、少しでも火事をへらそう。」（4年）</li> <li>・「水をもとめて」の学習をして</li> </ul> 

##### 2 「評価と支援」の基本的な考え方

中学年分科会では、「評価と支援」を大きく以下の二つに分けて考えた。それは、「学習指導計画、環境づくり、資料準備など、児童一人一人の思いや考えが十分に生かされる学習を展開するための評価と支援」と、「個々の思いや考えに十分に対応し、児童一人一人が問題解決、自己実現を図るための評価と支援」である。本研究では、前者を主な内容とした。なぜなら、前者を十分に行うことが後者のための計画につながると考えたからである。

そこで、前者の内容を次の二つに分けて研究主題に迫ろうと考えた。

- (1) 児童一人一人が目的や見通しをもち、主体的・意欲的に追究していくための評価と支援  
目新しいことに敏感に興味を示し、活動することを好む中学年の児童は、具体的で多様な

体験を重ねながら、生きる力を獲得していく発達段階にある。その特徴をできる限り生かした学習指導計画を立てていきたい。そこで、児童の興味・関心や既有経験等をとらえ、活動の目的や方法を明確にし、見通しをもてるようにするとともに、児童一人一人が自分の思いや考えを生かすことができる学習指導計画を構想することにした。これによって、児童は、主体的・意欲的に追究するようになると考える。

## (2) 児童一人一人が確かな社会認識を深めていくための評価と支援

児童が各自の思いや考えで追究した結果は、多様である。これで学習を終えてしまえば、社会認識を深めることはできない。社会科の授業では、児童一人一人が、これまでの追究活動を振り返ったり、友達が調べたこととの共通点や相違点を探したり、関連を調べたりすることを通して、社会的事象の奥にある社会的意味に気付くことが大切であると考えられる。

そこで、児童一人一人が、収集した事実を比較したり、関係付けたりして、そこから問題を発見できるように、情報交換の場における学習の状況を評価し、それに応じた支援の工夫が重要になる。さらに、児童一人一人が、社会的意味を追究する様子を評価し、個々の追究活動に即した支援を行うことも大切である。これによって、児童は、社会的意味に気づき、自分なりの思いや考えをもって地域社会に働きかけるようになると考える。

## 3 研究主題に迫るための手立て

### (1) 児童一人一人の思いを十分に生かし、意欲的な学習活動を支援するための「活動のゴール（学習の目的や内容）」の設定

社会的事象から問題を発見するためには、児童が自ら、事実にしっかりと目を向けることが必要である。そのためには、「児童自身が目的や見通しをもって意欲的に取り組める楽しい学習活動」の設定が有効であろうと考えた。これを、「活動のゴール」とした。

(事例) ア 自分たちの町を調べて、よその学校の人に紹介しよう。

イ わたしたちの町を、90周年の本で紹介しよう。

ウ 都内各地の様子を調べて、東京ガイドマップを作り、〇〇さんに送ろう。

ここでは、児童の思いを十分に生かし、一人一人に自分なりの観点に基づいた活動を広く許容していく。そうすることにより自分の体全体で集めた事実を手掛かりにして学習を進めていくことができると考える。

次ページの実践①では、作ったポスターを貼るのに適切な場所を調べに行った。この活動によって、交通安全運動の必要性を実感的にとらえることができた。

実践②では、「車」、「お店」、「人」といったキーワードを話し合っただけで決め、調べに行った。ふだん何気なく「あたりまえ」と思っていることも、事実がはっきりすると疑問や驚きが変わった。

実践③では、電力需要の伸びから、「ぼくたちが大人になる頃には、電気が足りなくなってしまうのではないか。」という疑問が生まれ、各自が、「何とかしよう。」という思いで追究を開始した。

このように、児童は、「目的」を意識しながら活動することによって、自分なりの「調べる観点（学習内容）」をもつことができる。この観点を手がかりに調べていくことにより、児童は社会的事象にしっかりと目を向けるようになる。「活動のゴール」は、「目的」をよ

り楽しいもの、みんなで共有できるものにするこゝで、児童自らが主体的・意欲的に社会的  
 事象に目を向けられるようにとの考えから生まれたものである。この「活動のゴール」に迫  
 るための追究過程を追究1とした。

(実践例)

活動のゴール例	評価と支援	児童が目を向けた社会事象
①交通事故を防ぐ ために、ポスターを貼る場所を探しに行こう。	掲示板のある場所を地図上に示し、話し合ってみ通しをもてるようにする。	・小さな交差点では、赤信号でもわたってしまう人が多い。 ・車の通る数が多い通りは、黄色信号になっても止まらず通ってしまう車が多い。
②開校90周年の本 にのせるクイズを作るために町の様子を調べに行こう。	歩数を数えたり、ストップウォッチやカメラを使ったりして結果を目で見て比べ易いようにする。	・駅から少しはなれたところに商店街がある。 ・広い通りは車の通る数が多いが、住宅地にはあまり通らず、止まっている車が多い。 ・車が通れないような細い道が集まっている所がある。
③便利な生活を続けるために省エネを訴えよう。	電力需要のグラフで省エネの必要性に気付くようにする。	・家の電気製品を全部使うと〇〇ワットも電気を使うことになる。たくさん使ってるなあ。 ・電気をつけっぱなしの教室があるなあ。

## (2) 児童一人一人が確かな社会認識を深めていくための情報交換の場の設定

児童一人一人が、つかんだ事実の社会的意味に気付き、自分なりの思いや考えをもつためには、つかんだ事実を互いに比べたり、つなげたりする活動を通して、「なぜだろう」、「何のためにあるのだろう」といった「社会的意味に迫る問題」をもつことが必要である。

そこで、中間報告会や質問コーナーといった情報交換の場を設定することにした。児童は、自分がかんだ事実と友達がかんだ事実を比べたり、意見を交換したり、教師からの助言を受けたりしながら、自分にとって切実な問題を生み出す。社会的意味に迫る追究活動の始まりである。ここからの追究過程を追究2とした。

次ページの実践④では、教師は、よその駅に降りた経験を思い出すように助言し、Y駅の特徴に気付くことができるようにした。お店の数を調べていたグループと、通る人の数と服装を調べていたグループとの情報交換によって、疑問が解決した。

実践⑤では、品物の値段が店によってあまり変わらず予想が外れ、児童は驚いた。その驚きから生まれた疑問の解決によって、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、専門店のそれぞれの特色がはっきりし、消費者の利用の仕方がわかってきた。

実践⑥では、各自が地域を選択して自由に調べた結果を観点別（自然、工場の数、住宅の数、人口、畑、鉄道など）に整理して見つめ直し、互いの事実を比べた結果、夜間人口と昼の人口の差という東京都の特色の一つに迫ることができた。

このように、児童が見学や観察、調査などの追究活動を通して集めた事実は、多くの社会的意味を含んでいる。その社会的意味に迫る問題づくりの場では、教師は、児童一人一人の問題意識を評価し、その意識の状況に即して、適切に支援していくことが必要である。例え

ば、事象の見方や考え方を例示したり、視点を絞ったり、集めた事実を整理したりする支援を行い、児童一人一人が切実な問題を生み出すことができるようにすることが大切である。  
(実践例)

情報交換の例	評価と支援	ア. 児童が発見した問題 イ. 深めた社会認識
④町探検をしてつかんだ事実をもちよりクイズを作る。	「なぜだと思う」「本当に」「どんな風に」「たとえば」と問いかけていく。	ア. 駅前にはなぜ商店街がないのだろうか。 イ. Y地域は会社が多く、つとめに来る人たちは自分の家のそばで買い物をする。だからこの地域も住宅地の中に商店街がある。
⑤スーパーマーケットとコンビニエンスストアの値段を比べる。	予想を立てられるようにするために、比べる商品を決めるように助言する。	ア. 値段はあまり変わらずコンビニは近くにあるのに、なぜお母さんはスーパーへ行くか。 イ. 旬の物や新鮮さ、種類を求める時はスーパーへ行くなど目的によって行きわけている。
⑥東京都を山地、台地、低地に分け、各々を観点別に比べる。	観点別に色分けされたカードに、話し合ったことをまとめられるようにする。	ア. 東京の低地は、人口が多いと言ってよいのか、少ないと言うべきなのか。 イ. 会社や店の集まる地域は夜の人口が少なく住宅地や団地の地域は夜の人口が多い。

(3) 児童の思いや考えを受け入れ、一人一人の確かな社会認識を深めていく、弾力性のある「学習指導計画案」の基本形の作成

以上述べてきた二つの手立てを学習指導に有効に位置付けるため、「学習指導計画案」の基本形を作成した。これは、児童の学習状況に合わせて修正・補足を加える余地のある、弾力性をもったものである。

(「東京の広がり各地の様子」を例にした学習指導計画案の基本形)

学習過程	主な学習活動・内容の例
追究1	(1)興味・関心が見通しをもつ ・東京都の各地の写真や立体地図模型をみて、東京都の概要をとらえ、東京都のイメージや、わからないこと、知りたいことを発表する。 ・「東京都のことをよく知るために、わたしたちの東京ガイドマップを作ろう。」と、活動のゴールを決める。 ・どんなことを調べたらいいのか考え、学習計画を立てる。
	(2)調べる ・各地の副読本、パンフレットを見たり、現地の人にインタビューしたりして、地域の特色を調べ、ガイドマップに記入していく。
追究2	(3)見つめ直す ・副読本などの資料を使って調べた結果を情報交換し合い、なぜそんなに違いがあるのかという問題をもつ。(→修正a) ・各自が立てた予想をもとにその根拠となる資料を探し、問題の解決に向けて話し合う。
	(4)確かめる・広げる ・話し合った後で、「東京のイメージ」について変わった点を発表する。 ・完成した「わたしたちの東京ガイドマップ」を見合い、感想を発表し合う。(→修正b)

(修正 a について)

児童は、インタビューや副読本によって収集した事実をつなげたり比べたりすることにより、「なぜだろう。」という疑問をもち、その因果関係を追究するであろうと考えた。しかし、児童の疑問は、「それぞれの地域の特色についてもっと詳しく知りたい。」というものであった。また、質問を受けた児童からも、「もっと詳しく調べたい。」という声があがった。そこで、各自が調べた地域にもう一度立ち返り、疑問の答えを発表し合う活動を通して、東京都の全体像をとらえられるようにしようと修正した。

(修正 b について)

学習内容を振り返り、全体像を確かめ合う活動を意図していたが、児童の思いは、「調べた所へ行ってみたい。」「写真を撮ってきたい。」とふくらんでいった。そこで、保護者と相談した上で、自分の行きたい地域へ出かける計画を立てる活動に変更した。これは、地域社会に進んでかかわろうとする児童の姿であり、学習をさらに広める活動であると考えられる。

このように、児童一人一人の変容を評価し、抱いた思いや考えに応じて柔軟に対処することができる、弾力性をもたせたこの学習指導計画案は、児童一人一人が地域社会に働きかけるようになるための有効な支援であると考えられる。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 「活動のゴール」や「情報交換の活動」を、支援の主たる内容とし、学習指導計画案に取り入れた研究であったため、活動的であるという中学年児童の特色を生かした授業を構想することができ、児童一人一人の「自ら追究していこう」とする意欲の現れ方や追究の仕方を把握することができた。
- (2) 児童の追究過程を二段階として設定しているため、それぞれの段階で児童の「社会的事象への見方や考え方の高まり」「社会認識の深まり」「地域へ自らかかわろうとする意欲の高まり」を把握することができた。

### 2 今後の課題

- (1) 二段階の追究過程を設定したが、児童の追究過程には個人差があり、ひとくくりにはできない。今後は、児童一人一人が問題解決、自己実現を図れるよう、複線型や選択型の追究過程を工夫し、個人差に応じていきたい。
- (2) 児童は、集めてきた事実を発表し合うことで満足し、学習がそこで止まりがちになる。現段階では、教師が十分にかかわり、「切実な問題づくり」を支援しているが、これを児童自らの力、あるいは児童相互のかかわり合いによって行われるようにしていかなければ、「自分の思い」をもって働きかけようとする児童に育ったとは言い切れない。学習問題づくりの在り方について研究を深めていきたい。

児童一人一人が産業や国土の様子について自分と社会的事象とのかかわりを通して自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の工夫

## I 研究主題設定の理由

児童を取り巻く社会は急速に変化し、多様なメディアから多くの情報が児童のまわりに氾濫している。また、国際化が進む中で、人間の価値観は、ますます多様化してきている。こうした状況の中、自分に必要な情報を選択し、自分なりの判断を下し、主体的に行動することができるようになるとともに、お互いの思いや考えを的確に伝えたり、理解し合えたりするためのコミュニケーション能力が児童に要求されている。

一方、核家族化や少子化が進み、自分の身の周りの出来事に対して無関心であったり、人間関係が希薄になったりする傾向が強くなってきている。このようなことは、社会科の学習においても、社会的事象を自分とのかかわりのある問題としてとらえたり、友達の意見を聞き、それを自分の考えと結びつけ、友達とかかわり合いながら学習を進めたりすることが苦手であるといった姿となって現れている。

反面、児童は、自分が興味・関心をもったことを調べたり、まとめたりすることは好きである。日頃は無関心な身の周りにある様々な情報も、問題意識をもつと進んで活動に取り入れる。また、そのようにして調べたことを自分なりの方法で表現することを好む。

ところで、自分と社会とのかかわりに注目し、友達とかかわり合いながら追究する力を育てるためには、教師が児童一人一人のよさや可能性、思いや考えを的確に把握・評価し、個々に応じて具体的に支援していくことが重要であるが、その方法等については十分実践が進んでいるとは言えないと受け止めている。

そこで、児童一人一人が、産業や国土の様子と自分とのかかわりについて自ら問題を持ち友達とのかかわり合いの中で解決の見通しを立てて主体的に追究することができるような学習活動とその評価・支援の工夫を図ることが、社会的事象に対する見方や考え方を深める上で重要であると考え、本研究主題を設定した。

## II 研究のねらい

児童一人一人が産業や国土の様子について、自分なりの見方や考え方を深めていくための学習活動とその評価・支援の在り方を明らかにする。

## III 研究の仮説

学習活動に、児童が社会的事象と自分とのかかわりを考える場や相互にかかわり合って追究する場を組み入れ、よさや可能性を伸ばす評価と支援を工夫することにより、社会的事象について、児童が自分なりの見方や考え方を深めることができるようになる。

## IV 研究の内容

5年分科会では、「社会的事象とのかかわり」と「児童相互のかかわり」の二点の「かかわり」を重視して研究してきた。

そこで、「稲作にはげむ人々」の実践をもとに「学習活動」と「評価と支援の工夫」について研究の内容をまとめることにする。

1. 学習活動と評価・支援の計画 小単元名「稲作にはげむ人々」（9時間）

学習過程	社会的事象とのかかわり	主な学習活動と内容（時間数）	児童相互のかかわり	評価項目	支援
気 付 く	<ul style="list-style-type: none"> <li>米不足の新聞記事</li> <li>米袋</li> <li>米のサンプル</li> <li>米不足のニュースのビデオ</li> <li>作付面積の変化のグラフ</li> <li>生産量の変化のグラフ</li> <li>消費量の変化のグラフ</li> <li>10aあたりの生産量の変化のグラフ</li> <li>日照時間の変化のグラフ</li> </ul>	<p>①米問題を報じている新聞記事（ニュースのビデオ）を見て、米問題について知っていることや疑問に思ったことなどを発表しあう。</p> <p>②米問題が起きた原因を、米の作付面積・生産量・消費量・10aあたりの生産量・日照時間の変化のグラフを見て調べる。（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達は、どんなニュースを知っているのかな。</li> <li>お母さんは、こんなことを言っていたよ。</li> <li>友達は、どんな疑問をもったのかな。</li> <li>友達は、どの資料で疑問を解決しているのかな。</li> </ul>	<p>①米問題について、関心をもとうとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>②米問題の原因として、生産量の減少を冷夏から捉えている。（知識・理解）</p>	<p>①関心を高めるためにテレビで見たことや家の人の意見などを積極的に発表するように促す。</p> <p>②グラフの読み取り方を助言する。</p>
集 約 す る		<p>③さらにグラフを詳しく見たり操作したりして気付いたことや疑問に思ったことを発表しあう。</p> <p>④これまでの学習から、これからもっと詳しく調べてみたいことをカードに書く。</p> <p>⑤カードを班ごとに検討して価値のあるものを大カードに書き黒板に貼り出す。（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくは、こんな見方をして、こんなことに気付いたよ。</li> <li>あんな見方もあるんだな。</li> <li>何を調べるのが大事なかな。</li> <li>何を調べるのが必要なかな。</li> </ul>	<p>③変化や全体の特色への着目、比較などにより、グラフを読み取ろうとしている。（観察・資料活用・表現）</p> <p>④⑤個々の興味、解決への見通し・困難性などから調べたいことの価値を考えようとしている。（関心・意欲・態度）</p>	<p>③いくつかのグラフを重ねて見る見方を助言する。</p> <p>④自分の書いているカードについて、価値や方向を意識できるように助言する。</p> <p>⑤視点をはっきりさせて検討するように助言する。</p>
学 習 問 題 化 す る		<p>⑥貼り出された大カードを全員で分類整理して、共通の学習問題を決める。（1）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>米作りのひみつを調べて米問題について討論会をしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもしろそうだな。</li> <li>ちょっとがんばればぼくにもできそうだな。</li> </ul>	<p>⑥各グループの疑問を構造化して分類整理をし、学習問題を明確にしている。（思考・判断）</p>	<p>⑥前小単元までの学習経験を活用できるようにする。</p>
学 習 計 画 を 立 て る		<p>⑦教科書・資料集等を参考にして各自学習計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べる視点</li> <li>調べる順序</li> <li>活用する資料</li> <li>作品のレイアウト</li> </ul> <p>⑧班ごとに、それぞれの計画を発表しあい、計画に修正を加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな調べ方をしようかな。</li> <li>友達は、どんなことを調べようとしているのかな。</li> <li>〇〇くんの調べ方をまねしてみようかな。</li> </ul>	<p>⑦調べる視点や必要な資料、作品のイメージなどが明確になっている。（思考・判断）</p> <p>⑧友だちの計画のよいところを、進んで取り入れようとしている。（関心・意欲・態度）</p>	<p>⑦教科書→資料コーナー→教師という順序で資料の出どころを求めていくよう助言する。</p> <p>⑦⑧一人一人が追究の見通しを持てるように助言する。</p>
追 究 す る	<ul style="list-style-type: none"> <li>米不足のニュースのビデオ</li> <li>農家の人の声</li> <li>米作りの苦勞</li> <li>米作りの手間</li> <li>生産を高める工夫</li> <li>自然条件との関連</li> <li>タイの人の声</li> <li>日本の消費者の声</li> </ul>	<p>⑨各自計画にしたがって追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米作りの手順</li> <li>機械化</li> <li>品種改良</li> <li>農業や肥料</li> <li>生産調整</li> <li>共同化、大規模化</li> <li>自由化</li> <li>問題点</li> <li>タイの人の声</li> </ul> <p>※追究の途中で、よい調べ方や資料の活用などについて情報交換をする。（3）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰かよい資料を持っていないかな。</li> <li>ぼくは、こんなことを調べたよ。</li> <li>あのやり方はおもしろそうだな。</li> <li>ぼくもあのことを調べてみよう。</li> <li>ぼくの工夫したところを見てほしいな。</li> </ul>	<p>⑨教師の支援や友達からの情報を有効に生かしなが、個人的に追究活動や表現活動に取り組み、必要な知識を獲得している。（関心・意欲・態度）</p> <p>（観察・資料活用・表現）</p> <p>（知識・理解）</p>	<p>⑨資料の読み取り方、まとめ方などを助言する。</p> <p>⑨よい調べ方やユニークなまとめ方をしている児童を紹介する。</p>
ま と め る		<p>⑩できあがった作品を展示し評価しあう。</p> <p>⑪米作り農家、消費者、外国の人にわかれて、米問題について討論会をする。（2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の作品のよいところはどこかな。</li> <li>ぼくは、こんなふうを考えているよ。</li> <li>友達も、こんなふうを考えているかな。</li> </ul>	<p>⑩友達のよさを認めようとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>⑪獲得した知識をもとに米問題について、自分なりの見方や考え方をしている。（思考・判断）</p>	<p>⑩友達の作品のよいところをみつけるように助言する。</p> <p>⑪調べたことをもとにそれぞれの立場で意見を言うよう助言する。</p>

## 2 社会的事象とのかかわり

児童が自分なりの見方や考え方を深めるためには、児童が社会的事象に対して主体的にかかわるようにすることが重要である。主体的にかかわっている時の姿は次のようであると考ええる。

- ・社会的事象に対して「知りたい」などの目的意識をもって迫る。
- ・自分自身や自分の生活とのかかわりで社会的事象をとらえようと自分の方に引き寄せる。
- ・学習して得た知識や考え方をその後の自分の生活に生かそうとする。

そこで社会科の授業では、学習の素材を児童にとって空間的・時間的・心理的に身近なところから開発し、学習材とし、その社会的事象と自分自身や自分の生活とのかかわりを考える場や機会を意図的に組み入れることが必要となる。

5年の産業学習で取り上げる事象は、社会の出来事に敏感に反応し、人々の生活に大きな影響を及ぼすものである。したがって、新聞やテレビなどで取り上げられている記事の中には、児童にとって身近に感じられるものが数多く存在している。こうした社会的事象を授業の中で取り上げることにより、児童は学習に対して関心と意欲をもち、それらに主体的にかかわるようになると考える。

<社会的事象の選定条件>

- ・児童が自分の足で見学や調査ができ、自分で資料収集などができる。
- ・最近おこった出来事や児童が今までに経験したことなどを重視する。
- ・児童が興味・関心をもったり、驚きや疑問をもったりするような、心を揺さぶる生活の中の問題や今日的な社会問題を大切にす。

## 3 児童相互のかかわり

児童は学級という社会において、友だちや教師とかかわり、互いに認め合い、励まし合いながら豊かな人間関係をつくっていく。そこで、学び合いの中で互いに高め合うためには、相互にかかわる場や機会を設定することが不可欠となる。このような児童相互にかかわる場や機会を通して、児童は互いのよさを学び、自分なりの見方や考え方を深めていくことができると考える。そこで、5年分科会では、児童相互による情報や意見の交換の場を「情報タイム」と名付けた。「情報タイム」は児童の必要感から自発的に設けたり、教師が学習の状況に応じて設置したりするものとした。「情報タイム」の内容として次のようなものを考えた。

こんな情報がほしい、知りたい。

新しい情報を教えたい。

一緒に調べよう。

こんな学習をこのようにやっています。

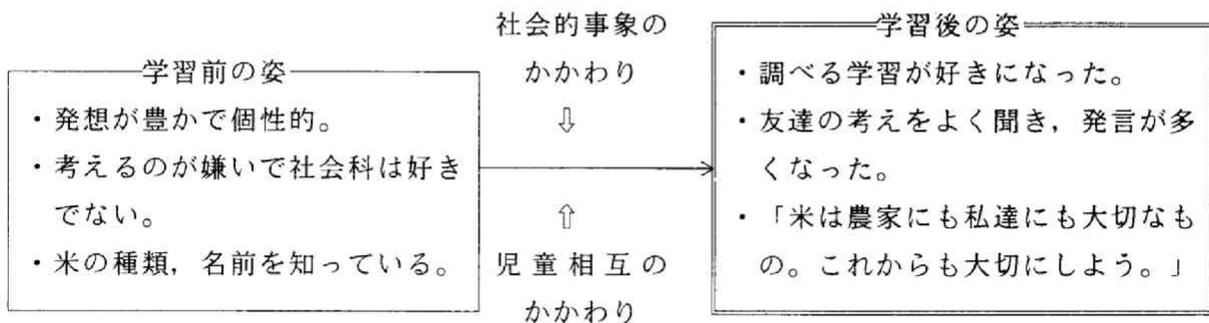
みんなはどう思う、どう考える。

学習問題に気付く段階、追究の段階、まとめの段階での情報交換の内容は、それぞれ異なってくる。

「情報タイム」の内容

学習過程	交換される情報の分類	情報タイムでの児童の様子	情報タイムの成果
気付く	<u>新しいニュースを教えたい。</u>	・タイ米だけでなく、アメリカ、オーストラリア、中国からも輸入されています。	☆友達の意見にうなずいたり、つぶやいたりして関心が高まった。
追究する	<u>こんな情報が知りたい。</u> <u>新しい情報を教えたい。</u> <u>一緒に行こう調べよう。</u> <u>こんな学習をこのようにやっています。</u>	・無農薬についての資料が見つからないので誰か持っていますか。 ・寒い地方で米ができるわけの資料が見つかりました。 ・お米屋さんにも米の輸入について、インタビューに行きます。誰か行きませんか。 ・農家の苦労や工夫について、聞き取りしています。農家の親戚のある人は協力して下さい。	☆互いに学習している内容や進捗具合がわかり、互いの励みになった。 ☆情報タイムを通じて、普段かかわりの少ない児童同士に新しい人間関係が生まれ、友達のよさが認められるようになった。
まとめる	<u>みんなはどう思う、どう考える。</u>	・タイ米10円という新聞記事についてどう思いますか。 ・もし今年日本の米が豊作だったら、輸入はどうしたらいいと思いますか。	☆学習を通して獲得した知識をもとに、自分なりの考えを友達と交流できるようになり、友達にも色々な考えがあることがわかった。

以上のように二つの「かかわり」を重視したことにより、学習への意欲を増し、社会的事象への見方や考え方を深めることができるようになった。以下は0児に見られた変容である。



#### 4 評価と支援の工夫

学習指導の中で、これまで、私たちは児童に対して、「できた、できない」とか、「意欲的に取り組んだ、取り組まなかった」というような結果のみに注目した評価をしがちであった。しかし、児童は、そのような評価や指導によって成長していくのではない。これからは新しい学力観に立ち、一人一人のよさや可能性を発見し、それをさらに伸ばしていくことができるよう、肯定的な評価を行い、支援に生かすようにすることが重要である。

そこで、5年分科会では、「評価」を「評定」と区別し、「評価とは、児童個々のよさや可能性、あるいは特性を発見しその伸長を促すものであり、指導と一体化していくものでなければならない」ととらえた。そして、そのためには「その子の学習（思いや意欲の傾向）にどんな特色・よさがあるか」「何を契機にして、学習の様子を変化（飛躍）させたか」などのことに注目することが大切であると考えた。

具体的な手立てとしては、教師による評価では、指導計画や本時の指導案の中に、四つの観点をふまえた評価項目や評価の視点・方法を位置付け、児童を肯定的・共感的に受け止めながら自信と意欲を高めることができるような支援をしていくようにした。また、児童による相互評価・自己評価では、本時の指導案の中に、「友達から学んだこと」や「がんばったこと」など友達のよさを見つけたり、児童が自分自身について見つめ直す機会や場を用意したりした。その方法は、教師による監察、児童の作品・発言・ノート・自己評価カード・相互評価カードなどの内容分析、アンケート、面接、ペーパーテストなどで評価を行い。個々の実態に応じた支援を行った。以下はその事例である。

段階	始めの姿	⇒	・評価と*支援の方法	⇒	変容の様子
気付く	関心が高まっている。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察・カード分析</li> <li>*米の実物観察</li> <li>*外国米の試食</li> <li>*新聞記事やニュースのVTRの紹介</li> </ul>	⇒	<p>興味や関心をもて、多様な疑問や意見をもてた。</p> <p>「同じ米でもいろいろな味があるんだ。」</p>
集約化	多様な疑問をもっている。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード分析</li> <li>*日本の稲作の現状や消費についての資料を提示</li> <li>*グラフ読み取りの助言</li> </ul>	⇒	<p>稲作の工夫や消費者の好みの変化に気付いた。</p> <p>「ぼくもあまりお米を食べてないな。」</p>
学習問題化	もっと詳しく調べたいことが決まっていらない。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察・カード分析</li> <li>*グループの中に教師が加わり、一緒に検討する。</li> </ul>	⇒	<p>友達のカードを参考に自分なりの学習問題をもてた。</p> <p>「わたしもこれを調べよう。」</p>

学習計画	学習の見通しが立っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・学習計画表分析</li> <li>* 友達の計画を聞き、参考にしよう助言する。</li> </ul>	<p>調べる順序や方法、使う資料などを決められる。</p> <p>「ぼくも一緒に図書館へ行こう。」</p>
追究する	行き詰まってしまう。  作品内容が一面的になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・自己評価カード分析</li> <li>* 情報タイムの活用を勧める。</li> <li>・作品分析</li> <li>* 情報タイムの活用を勧める。</li> </ul>	<p>新たな解決方法を知った。</p> <p>「このことも自分の作品に書いておこう。」</p> <p>効果的な表現方法が使えた。</p> <p>自分の考えや思ったこと、感じたことを書けた。</p> <p>「だから米不足がおきたんだ。」</p> <p>「日本の米作りの工夫はすごい。」</p>
まとめ	自分なりの見方や考えがたまっていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価カード</li> <li>・行動観察</li> <li>* 友達の作品のよさに注目するように助言する。</li> <li>* 日本の農家、消費者、外国の人の立場で検討会を開く。</li> </ul>	<p>自分なりの見方や考え方が深まり新たな課題をもてた。</p> <p>「日本の農家のために輸入をやめればいいのに。」</p> <p>「農家の人はおいしいお米を作ってくれているんだから大切にしまきゃ。」</p>

## V 研究の成果と今後の課題

- 1 学習過程に応じて社会的事象を設定し、児童がそれとのかかわり合いながら追究することにより、学習に対する方向性が明確になり、自分なりの見方や考え方を深めることができた。
- 2 児童相互のかかわり合いの場を設けることで、意見の交流や情報の交換が活発になり、児童は自分の考えの確認やちがいはっきりさせることができた。このことは、自分なりの見方や考え方を深めるのに有効であった。
- 3 学習活動における一人一人の表現、行動、発言などを観察や作品、評価カードなどの分析を通して、個々の考えを肯定的かつ共感的に評価、支援した。その結果、児童の自信と意欲を高めることができた。
- 4 「社会的事象とのかかわり」と「児童相互のかかわり」の二点を重視して、児童の自分なりの見方や考え方を深めるための学習活動と評価や支援の在り方について、研究してきたが、今後は、「体験的な活動」や「広く地域社会へと働きかける活動」等を通して、研究を積み重ねていきたい。

児童一人一人が歴史的事象を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めるための評価と支援の工夫

### I 主題設定の理由

小学校の歴史学習においては、児童一人一人が歴史的事象を追究することを通して、未来に向かって主体的、創造的に生きていくための基礎となる歴史的な見方や考え方を自ら深めていけるようになることが重要である。そこで、このような歴史学習への転換を図るために、教師は評価と支援をどのように工夫、改善したらよいかを明らかにしたいと考え、上記のような研究主題を設定した。

### II 研究のねらい

児童一人一人が歴史的事象を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めていくために必要な教師の評価と支援の在り方について明らかにする。

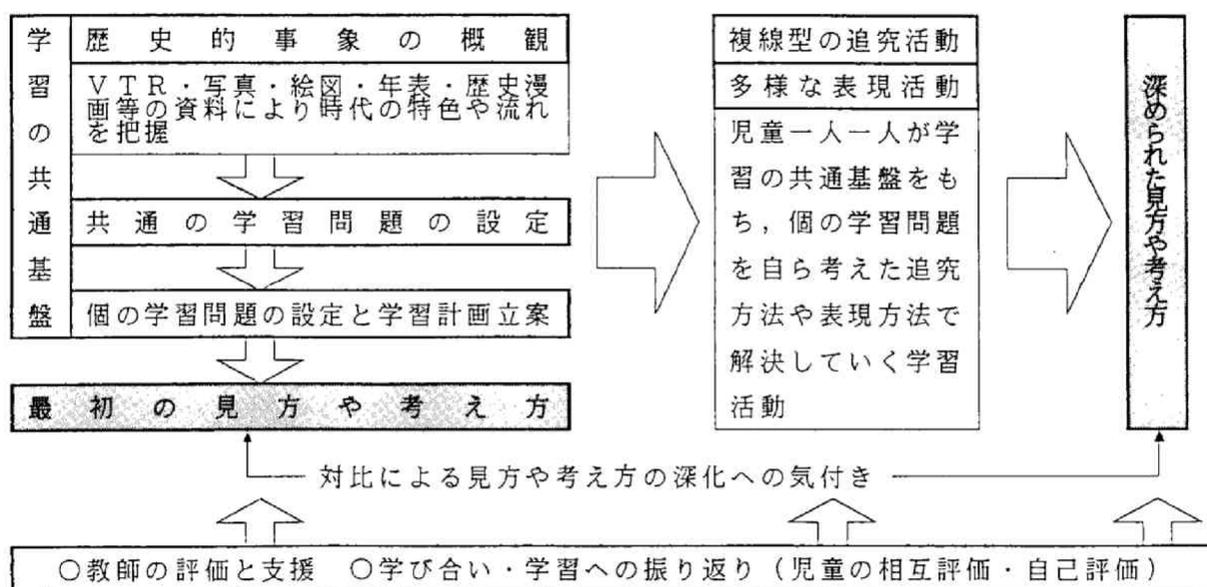
### III 研究の仮説

児童一人一人が歴史的事象を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めるには、次の評価と支援が必要である。

- 児童一人一人が学習の共通基盤をもち、これを基に自らの学習問題を追究し、考えを深め合う学習活動を工夫する。
- 児童一人一人の学習意欲の向上や学習方法の改善、歴史的事象への見方や考え方の深化につながる評価と支援の機会を学習過程に位置付ける。

### IV 研究の内容

本分科会の研究のねらいと仮説に基づいた児童の主体的な学習活動は、以下のように図示することができる。



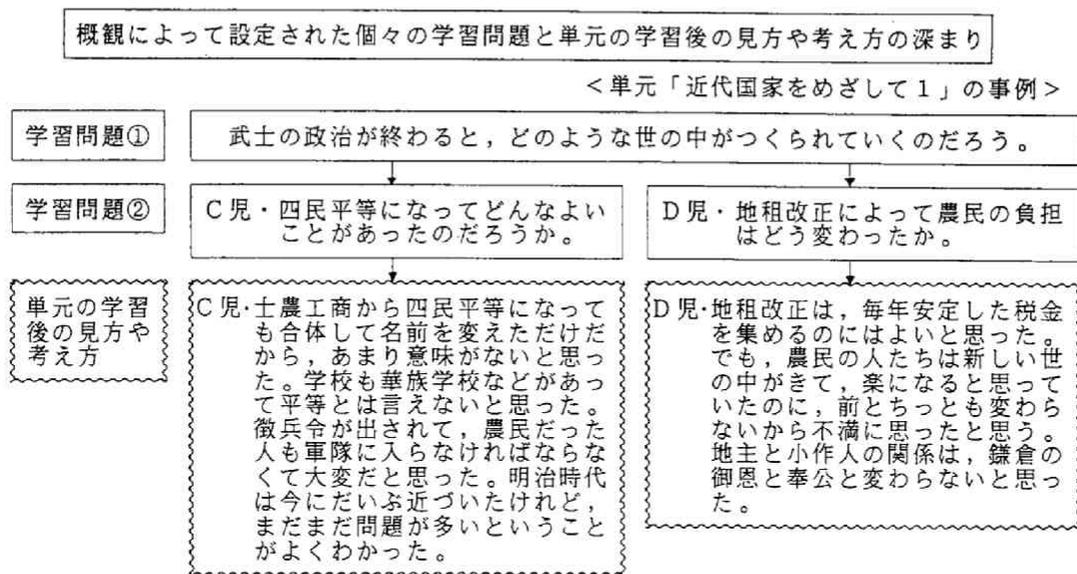


(3) 歴史的事象の概観と学習問題

歴史的事象の概観の後、学級で児童が自分の考えや予想を出し合い、共通の学習問題を設定する。これをもとに、児童一人一人が関心・意欲に基づいて、自分が最も追究していきたい個の学習問題を設定する。児童一人一人が共通の学習問題と関連付けながら個の学習問題を解決していくことを通して、単元のねらいに迫るようにする。

本分科会では、共通の学習問題を「学習問題①」とし、個の学習問題を「学習問題②」とした。

そして、「最初の見方や考え方」を児童一人一人がもつことができるようにするためには、学習問題①の把握の際に十分な話し合い活動の場を設定し、学習の共通基盤をより確かなものにすることが重要である。



2 複線型の追究活動と多様な表現活動

個の学習問題により追究の仕方や表現の方法は、児童一人一人によって異なる。したがって、追究活動を複線化したり、多様な表現方法を取り入れたりすることによって、はじめて個の学習が成立する。こうした学習活動の実現により、児童は学習意欲を持続させ、学習に対して満足感や達成感をもつことができると考える。

また、「複線型の追究活動と多様な表現活動」においては、次の評価と支援が大切である。

- (1) 個の学習問題の質、追究方法、表現方法等、児童のよさを認め、励ましていく。
- (2) 単元のねらいや学習内容に応じて、どのような調べ方をし、どう表現するかなど、学習方法を具体的に例示するなどして、追究の仕方や表現方法の見通しが立てられるようにする。
- (3) 表現活動の中に自分なりの見方や考え方をいれるように助言する。
- (4) 追究した内容に誤りがあれば、事実を提示し、修正できるようにする。

複線型の追究活動と多様な表現活動に対する評価と支援

児童が学習問題①に基づいて設定した学習問題②を、どのような表現活動を取りながら追究したか、また、教師がどのような評価と支援を行ったかを示したものが下の図である。

< 単元「270年も続いた土農工商の世の中」の事例 >

学習問題① (共通の学習問題)	学習問題② (個の学習問題)	表現活動	評価と支援
江戸時代はなぜ270年もの長い間続いたのだろうか。	A児・江戸幕府は、大名をどのように考え、どのように支配したのだろうか。	かべ新聞にまとめて、発表する。	大名の配置図や武家諸法度の内容を大きく書き写しているだけだったので、「資料と自分たちの読み取りを組み合わせると、聞いている人がよくわかる発表になると思うよ。」と助言した。
	B児・土農工商のしくみや農民の心得は、どのようなものだったのだろうか。	紙芝居を作る。	紙芝居の内容が事実の紹介にとどまっていたので、C児のグループと交流を図り、自分たちの見方や考え方が盛り込めるような表現の仕方を工夫できるようにした。
	C児・農民のくらしや考え方は、どのようなものだったのだろうか。	衣装や小道具を工夫して劇をする。	自分たちの見方や考え方を多分に盛り込んだシナリオ作りに賞賛を与え、主体的によりよいものを仕上げているように、ビデオで自分たちの劇を撮影し、劇の内容を振り返りながら練習できるようにした。
	D児・鎖国とキリスト教の禁止はどのように進められたのだろうか。	紙芝居とクイズを作って発表する。	政策が進められていく過程に大変興味をもっていたので、鎖国完成までの細かな年表を提示し、一人一人がその必然性について考えてみるよう助言をした。
	D児・キリスト教徒弾圧はどんなものだったのだろうか。	劇をする。	鎖国の時代の劇にアメリカ人が登場する等、事実と反する内容が盛り込まれていたため、もう一度資料で確認するよう助言した。



## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- 「歴史的事象を概観する」活動を取り入れることにより、児童は大まかな時代の特色や流れをつかむことができ、その時代に対する最初の見方や考え方をもつことができた。

また、児童は自らの興味や関心、最初の見方や考え方に基づいた学習問題を設定することができ、その時代を多様な観点から追究することになり、理解を深めることができた。

- 複線型の追究活動と多様な表現活動を学習活動に取り入れることにより、児童は自分の設定した学習問題を自分なりの方法で追究し、表現することができた。このことで児童の主体性は増し、追究する意欲を持続させることができた。

- 歴史的事象の概観に基づく学習の共通基盤をもった上で、自分の考え方や収集した情報を交流し合う「学び合い」の場を設定することにより、児童は事象に対する見方の違いや表現の多様性などを学び、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

以上のような学習を積み重ねることにより、歴史的事象への認識が深まるなど学習の質的な高まりがみられた。

### 2 今後の課題

- 歴史的事象を概観する方法の多様化を図ったり、概観に適した単元の構成を考えたりして、より追究意欲が高まるような学習活動の在り方を明らかにする。

- 一人一人が追究したことを児童が相互に関連付けながらまとめていく「学び合い」の活動をより充実させていく。

#### 研究主題

＜第6学年B分科会＞

歴史学習において、児童一人一人が「考える力」と「表現する力」を高めるための学習活動及び評価と支援の工夫

### I 主題設定の理由

問題解決的な学習過程に、児童一人一人がかかわれる体験的な学習活動を取り入れていけば、歴史学習への興味・関心が高まり、自ら学ぶ意欲をもち主体的に学習することができるようになる。

本分科会では、歴史学習において児童一人一人が「考える力」と「表現する力」を高めていけば、歴史的事象のもつ意味を自分なりに考え、それを豊かに表現することができるようになり、全体研究主題にある社会的な見方や考え方を深めることができると考えた。

そこで、「考える力」と「表現する力」を高めていくことができる学習活動及び評価と支援のあり方を明らかにするために、上記の研究主題を設定した。

### II 研究のねらい

歴史学習において、児童一人一人の「考える力」と「表現する力」を高めるためには、どのような学習活動及び評価と支援の工夫が有効であるかを明らかにする。

### III 研究の仮説

児童の思考と表現が相互にかかわる体験的な学習活動と、それに対する評価と支援を工夫すれば、「考える力」と「表現する力」が高まり、歴史的事象への見方や考え方が深まる。

#### IV 研究の内容と方法

##### 1 「考える力」と「表現する力」と歴史的認識

児童が実際に奈良の大仏の大きさを知ると、「なぜこんな大きいものを造ったのだろうか」とか、「だれがどうやってこんな大きい物を造ったのだろうか」などの驚きや疑問をもつ。この驚きや疑問は、学習問題として集約され、問題を追究していく学習意欲となる。

児童が学習問題を解決する過程では、いくつかの歴史的事象を比較したり、関連付けたりして、その歴史的事象がもつ意味について考えていく。また、歴史上の人物に対して、その人物になって考え、歴史的事象を共感的に理解していく。このように、児童は歴史的事象と主体的にかかわりながら、学習問題を解決していく。本分科会では、歴史的認識（歴史的な見方や考え方）が、このような学習活動の中で養われていくと考えた。

そこで、「歴史的事象を比較して考える」、「歴史的事象を関連付けて考える」、「歴史的事象の意味を考える」、「立場や見方を変えて考える」というように、『考える力』を高めていくような体験的な学習活動を設定することが、歴史的認識を深めることになると考えた。そして、その歴史的認識の深まりは、その時代はどんな時代だったかという歴史イメージの深まりとして表現されると考えた。

歴史事象を知る	歴史事象を比較する	歴史事象を関連付ける	歴史的意味を考える
《地租改正》 税を稲からお金に して集めた。	稲で納めた年貢を金 納にしたので、税収 が安定した。	税収が安定したので、 官営工場の建設や軍備 の拡充に役立った。	地租改正や産業の発達 徴兵制・四民平等など で近代国家を目指した。

————— 歴史的認識の深まり（その時代の歴史イメージとして表現される） —————>

また歴史的事象を比較したり、関連付けたりして、歴史的意味を考えていく中で、児童が考えた「その時代の歴史イメージ」を作品化したり、話し合ったりすることにより、歴史的認識はよりいっそう深まる。したがって「表現する力」も高めることが大切であると考えた。

そこで、本分科会では、児童の思考（歴史的事象に主体的にかかわる活動）と表現（調べたことや考えたことをもとにして自分なりの見方や考え方を深めながら表出する活動）が相互にかかわりあうような体験的な学習活動と評価・支援の工夫を研究の柱とした。

##### 2 歴史学習を通して育てたい児童の姿

児童の思考と表現活動が相互にかかわりあう体験的な学習活動を通して、次のような児童を育てたいと考えた。

(1) 自分なりの「その時代の歴史イメージ」を表現することができる。

① その時代の特色を説明できる。

（歴史的事象を関連付たり意味付たりして説明できる。）

② その時代に対する自分なりの感想がもてる。（根拠のある感想であること。）

③ 歴史上の人物の立場で考えられる。

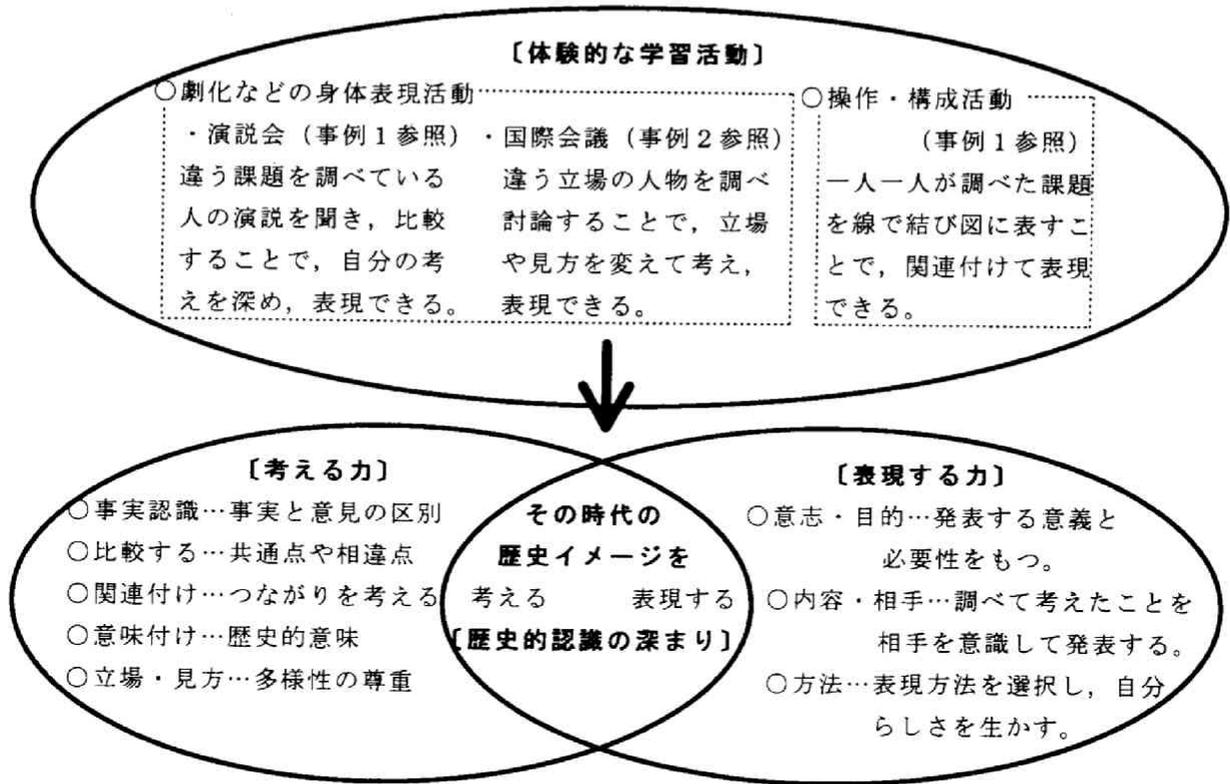
(2) 前の時代と比較・関連付けて歴史的事象をとらえることができる。

(3) 自分とのかかわりで歴史的事象のもつ意味を考えることができる。

3 「考える力」と「表現する力」を高めるための工夫

(1) 体験的な学習活動の工夫

体験的な学習活動において、児童の思考と表現が相互にかかわるようにすると、考えを深めながら豊かに表現することができ、「考える力」と「表現する力」が高められると考えた。「考えながら表現する」体験的な活動として、下記の三例を実践した。



(2) 評価・支援の工夫

① 児童のその時代の歴史イメージの変容を評価できる学習計画表

活動時間・表現方法・歴史イメージの変容・自己評価を記入できる学習計画表を作成した。この学習計画表は、児童にとって学習の流れや自分の歴史イメージの深まりが確認できるものであり、児童の思考の流れを評価しやすく、個別の支援をおこなう際に役立つと考えた。

② 評価結果の一部を記録に残す補助簿

体験的な学習活動中に有効な支援をおこなうために、前時までの評価結果（計画表・観察・作品・発言などの評価方法で学習状況を多面的にとらえたもの）を記録するために補助簿を作成した。この補助簿を活用すれば、児童一人一人に、その活動の中で育てたい力が分析でき、必要なときに十分な声かけができると考えた。

③ 資料メニューとアドバイスカード

児童が活用している資料を把握すれば、関心の傾向を評価・支援できると考え資料メニューを作成した。表現活動時での相互評価を把握すれば、理解したことや考え方について評価できると考えアドバイスカードを作成した。

#### 4 実践事例

事例1 操作・構成活動で関連付けて考えることにより、「考える力」と「表現する力」が  
 高まりその時代の歴史イメージを深めていった事例

- (1) 小単元名 明治維新で活躍した人々（8時間扱い）  
 (2) 主な展開

主な学習活動と内容	◆評価◇支援の工夫	A君の歴史イメージの変化
① 幕末と明治の日本橋の2枚の絵を比較し、話し合う。	①◇変化の事実がよくわかる学習材を用意する。	② 日本を強くして争いのない国にしようとしたのだろう。強くするために技術を取り入れて産業を発達させたと思う。（産業を調べる。）
② 開国・国際情勢・幕府崩壊について調べ、学習問題『大久保利通などを中心とした明治新政府はどんな国をつくらうとしたのだろうか』と設定し、予想する。	②◆意欲的に学習問題に取り組もうとしているか。 ◇国際情勢を知り、大久保の立場で政策を考えられるようにする。	⑤ 産業を発達させ軍事工場をつくることで、軍を強くすることができるんだ。四民平等と地租改正で国民みんなから税金を集めたから工場が造れたのだろう。四民平等と徴兵制で国民全部で軍隊をつくらうとした。
③ 大久保の行った政策を歴史新聞で書き表すことを知り、学習課題を決め学習計画を立てる。	③◆学習課題を明確にもち学習計画が立てられたか。（学習計画表） ◇表現する意志・目的・内容・相手・方法を明確にできるようにする。	『つまり』四民平等や地租改正等は軍に役立っていた。
④ 課題を追究する。 ・税金（地租改正）・教育（学制） ・産業の発展（殖産興業）・軍隊（徴兵制）・身分制度（四民平等） ・中央集権（廃藩置県） ・事実を新聞1段目に書く。 ・政策演説原稿を新聞2段目に書く。	④◇政策ごとに資料を準備する。（資料メニュー） ◇演説のしかたを紹介する。（大久保が下級役人に政策を演説している場面）	大久保はいろいろな方法で日本という国を意識して強くする政治をしたのだ。
⑤ 架空演説会を開く。	⑤◆大久保の立場でわかりやすく演説していたか。	⑦⑧ B君やCさんは、大久保がやった政策は日本を強くするよい政治だという意見です。でもぼくは、大久保は反対する人を無視して日本をむりやり強くしようとしたと思います。大久保のやったことは、日本にとって大切であったけれど少し強引かなと思いました。
⑥ 操作・構成活動をして歴史イメージを作り図に表す。	⑥◇いろいろな政策を関連付けてその意味を考えられるようにする。	
⑦ 政策に反対運動があったことを知り歴史イメージを新聞社説欄に書く。	⑦◆歴史イメージを深められているか	
⑧ 歴史新聞を読みあい、共感や疑問を投書として出す。	⑧◇互いのよさを認め合う。 （投書アドバイスカード）	

#### (3) 考察

学習計画表の記述や補助簿をもとに、②の活動ではA君は明治政府が日本を強くしようとしたことは認識している。ただし、強くして争いのない国にしようとしたという認識は、戦争のための軍の整備という事実から考えて一方的である。また、殖産興業政策という一面だけから国づくりを考えているので、④⑤⑥の活動では次のような支援を試みた。（ア）軍隊について調べた子と同じグループにして、考える機会を作る。（イ）産業の中でも軍事工場に力を入れた資料を提示する。（ウ）地租改正や四民平等の産業の発達や軍の整備に大きく関連していたことに気付くように言葉かけをする。その結果A君は学習問題について、いろいろな政策を関連付けて考えることができるようになり、その時代の歴史イメージを深めることができた。

事例2 身体表現活動で立場や見方を変えて考えることにより、「考える力」と「表現する力」  
が高まりその時代の歴史イメージを深めていった事例

- (1) 小単元名 2つの戦争と日本の動き(6時間扱い)  
(2) 主な展開

主な学習活動と内容	◆評価◇支援の工夫	Kさんの歴史イメージの変化
①日露戦争後の外国からの日本に対する評価の変化を話し合う。	①◇日本の国力の高まりに関心をもてるような学習材を用意する。	①生活や文化を西洋風にしようとしたのではない。
②学習問題を『日本はどのようにして力をつけ、外国に認められるようになったのだろうか。また、そのことは外国の人々にどのような影響を与えたのだろうか。』と設定し予想する。	◆意欲的に学習問題に取り組もうとしているか。	②戦争があつて日本は軍事面では強かった。たぶん、外国の力を取り入れて近代化をしていたと思う。 (近代化の視点)
③年表をもとに歴史イメージを考え国際会議『日本の国際的地位の向上』で様々な人物の立場で、発言することを知り学習課題を決め学習計画を立てる。	③◆自分なりの歴史イメージがもてたか。 ◆学習課題を明確にもち学習計画が立てられたか。(学習計画表)	③④伊藤博文を通して政治の近代化について調べる。 (政治の近代化の視点)
④課題ごとにグループを作り追究する。 ・政治の近代化(伊藤・板垣・大隈)・条約改正(陸奥・小村)・教育の充実(福沢)・戦争の様子(東郷)・科学の発展(野口)・産業の発展(労働者・田中)・外国(中国・朝鮮・ロシア)	④◇できごとと人物についての資料を準備する。(資料メニュー) ◇会議での発表の仕方例を紹介する ⑤◇発表内容や児童の様子を補助簿にメモしながら、会議が児童の思考の流れに沿うように司会をする。	⑤日本はアメリカなどからは不平等条約を結ばされていたが、中国や朝鮮の人々にひどいことをしていた。やったりやられたりの時代だ。 (外交+外国の視点)
⑤「国際会議」でそれぞれの立場で発言する。	⑥◇互いのよさを認めあう。(アドバイスカード) ◆それぞれの人物の考え方が整理されているか。	⑥日本は国際的地位の向上のために国会・憲法・大学などを作ったりして条約改正に努力をしていたようだ。でも、戦争で外国に迷惑をかけた。日本は二重人格国家のようだ。
⑥発表を聞き、歴史イメージを深める。	◆分かりやすく表現しているか。 ⑦◆歴史イメージを深められているか	(政治の視点+教育+外交+外国の視点)

(3) 考察

④の活動では学習課題とかかわりのある人物についての資料を用意し、それぞれの人物の立場になって考えやすいようにした。また、日本人の立場と外国の人の立場の発言の違いが明らかになるように声かけをした。⑤の活動では④の支援が生きて人物になりきって考えられるようになり、日本人、外国の人の立場になって、論点を明らかにして「国際会議」で話し合うことができた。その結果、人物と立場の違う人の意見を聞くことにより、様々な視点から学習問題について考えることができるようになり、その時代の歴史イメージを深めることができた。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

児童一人一人の歴史的な見方や考え方を深めるには、「考える力」と「表現する力」を高めることが重要である。そのために、児童の思考と表現が相互にかかわりあう体験的な学習活動と評価・支援の工夫を考えた。

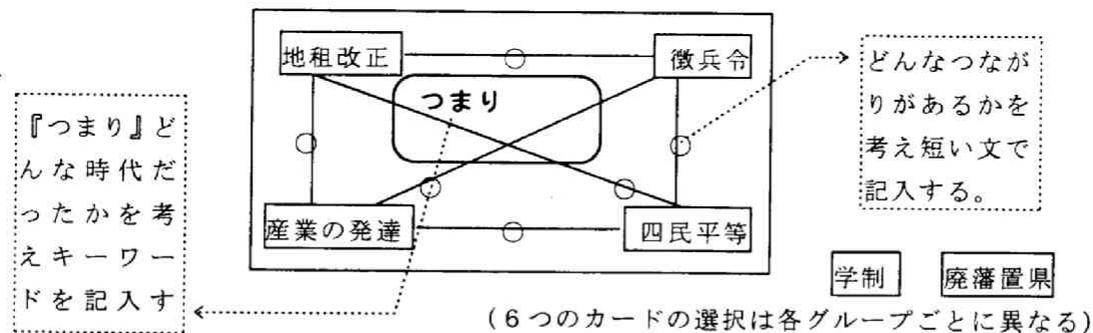
#### (1) 劇化などの身体的表現活動（「演説会」・「国際会議」） 【実践事例1・2参照】

人物に共感してその時代の歴史イメージを深めていくには、演説会や国際会議というようにその人物の立場に立って考えるような場を設定することがたいへん有効であることがわかった。この活動では目的や発表相手が明確となっているので、主体的に事実を調べて考え、相手にわかりやすく表現しようとする意欲につながる。このことが「考える力」と「表現する力」を高めて、歴史的な見方や考え方を深めるのに役立った。

#### (2) 操作・構成活動 【実践事例1参照】

歴史的な事象を比較したり、関連付けたり、意味付けたりして、その時代の歴史イメージを深めていくには、操作・構成活動がたいへん有効であることがわかった。この活動では、児童は課題を記入したカードを手にもち「つまり」や「だから」といったつなぎ言葉を口にしながらかんじたり、置き換えたり、線で結んだりして試行錯誤をくり返すので、「考える力」と「表現する力」が高められる。このことが、歴史的な見方や考え方の深まりに役立った。

〔明治維新での操作・構成活動の例〕



#### (3) 児童の思考と表現を評価できる学習計画表 【実践事例1・2参照】

学習計画表に学習過程の各段階での自分なりのその時代の歴史イメージを書くようにした。その結果児童自身が自分の歴史イメージの変容を知ることができるようになった。また、表現する「意志・目的」「内容・相手」「方法」を書き入れることにより、児童は見通しをもって学習活動をするようになった。この学習計画表により、児童の思考と表現を評価することができ、必要ときに十分な個別の支援をおこなうことができた。

### 2 今後の課題

- (1) 体験的な学習活動をおこなっている際の児童一人一人に対する評価と適切な資料の提示・助言などの支援についてより具体的な研究を深める必要がある。
- (2) 単元の目標・明治時代以降の人物の取り扱い（だれをどのように）と体験的な学習活動の関連について検討をしていきたい。